

平成30年

火災・救急・救助統計



伊万里・有田消防本部

## はじめに

この統計は、当消防本部が管轄する伊万里市及び有田町における火災・救急・救助の出動に関する状況を収録し、消防行政を広く一般に紹介するとともに、合理的な運営資料とするために編集したものです。

統計資料は、平成30年1月1日から12月31日までの1箇年の状況を示しています。

本統計により、消防行政に対する御理解を賜り、地域防災の推進に活用していただければ幸いです。

伊万里・有田消防本部

# 目 次

統計の概要（火災・救急・救助）	・・・	1～3
第Ⅰ章 火 災		
第Ⅰ - 1表 平成30年火災概要と前年比較	・・・	4
第Ⅰ - 2表 地区別火災発生状況	・・・	5
第Ⅰ - 3表 地区別月別火災発生状況	・・・	6
第Ⅰ - 4表 月別・曜日別火災発生状況	・・・	7
第Ⅰ - 5表 時刻別火災発生状況	・・・	8
第Ⅰ - 6表 建物用途別火災発生状況	・・・	9
第Ⅰ - 7表 出火原因別火災発生状況	・・・	10
第Ⅰ - 8表 出火原因別火災発生状況（過去5年間）	・・・	11
第Ⅰ - 9表 伊万里市における過去10年間の火災発生状況	・・・	12
第Ⅰ - 10表 有田町における過去10年間の火災発生状況	・・・	13
第Ⅱ章 救急・救助		
第Ⅱ - 1表 救急出動件数・搬送人員	・・・	14
第Ⅱ - 2表 各町（地区）別救急出動件数・搬送人員	・・・	15
第Ⅱ - 3表 救急出動件数及び搬送人員の推移	・・・	16
第Ⅱ - 4表 年齢区分別・事故種別搬送人員	・・・	17
第Ⅱ - 5表 現場到着までの所要時間	・・・	17
第Ⅱ - 6表 医療機関収容までの所要時間	・・・	17
第Ⅱ - 7表 事故種別・傷病程度及び性別搬送人員の状況	・・・	18
第Ⅱ - 8表 急病に係る疾病分類別・傷病程度別搬送状況	・・・	18
第Ⅱ - 9表 救急隊員が行った応急処置等の状況	・・・	19
第Ⅱ - 10表 地区別種別救助出動件数	・・・	20
第Ⅱ - 11表 地区別種別救助人員	・・・	20
第Ⅱ - 12表 救助活動の状況（過去5年間）	・・・	21

# 火 災

## 火災の現況

平成30年中の管内における火災発生件数は、伊万里市29件、有田町12件の合計41件（38件）であり、昨年より3件の増加となりました。

### 1 発生状況

火災種別の内訳は、建物火災17件（17件）、その他の火災17件（12件）、林野火災6件（6件）、車両火災1件（3件）、船舶火災0件（0件）、航空機火災0件（0件）となっています。

### 2 出火原因

火災件数41件を出火原因別にみると、「その他…17件」、「火入れ…8件」、「電灯・電話等の配線…3件」、「不明・調査中…3件」の順となっています。

### 3 損害額

火災による損害額は、1,968万円（1億781万3千円）で、前年と比較し8,813万3千円の減少となりました。

### 4 建物焼損状況及び焼損程度

建物火災の件数は17件（17件）で、焼損棟数は21棟（23棟）、焼損面積は692㎡（1,360㎡）で、前年と比較し焼損棟数及び焼損面積とも減少しています。

### 5 り災世帯・り災人員

り災世帯数は10世帯（15世帯）、り災人員17人（33人）で前年と比較し、り災世帯数及びり災人員とも減少しています。

### 6 死傷者の発生状況

火災による死者は0人（0人）、負傷者は9人（6人）で前年と比較し、死者は発生していませんが、負傷者は増加しています。

※（ ）内の数字は、前年（平成29年中）の数字を表します。

※表中にある火災種別、用途別、原因別の区分は火災報告取扱要領によります。

# 救 急

## 救急の現況

消防機関の行う救急業務は昭和38年に法制化され、伊万里市では昭和41年9月、有田町では昭和46年11月に救急業務を開始して以来、住民の生命・身体を守る上で不可欠な業務として定着しています。その中で救急業務はより高度化し、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与などが追加されています。それにより救命の効果だけでなく、病院前で病態の把握ができ、よりよい病院の選定が行えるようになっていきます。

このような状況の中、当消防本部では、より質の高い救急業務を実施するため救急症例検討会や地域医療機関での実習や毎月の救急処置訓練などで救急隊員の知識、技術の向上を図っています。また、地域医療機関の受け入れ体制を構築するため、メディカルコントロール協議会等を活用し、病院前救護体制の充実を図っています。

### 1 出動件数・搬送人員

平成30年中における伊万里市・有田町の救急出動件数は、3,562件（前年3,530件）、搬送人員は3,320人（前年3,309人）となり、出動件数で32件の増加、搬送人員で11人の増加となりました。

### 2 事故種別

出動内容を種別で見ると、急病によるものが56.7%と全体の半数を占め、次に転院搬送が17.9%、一般負傷が14.3%の順になっています。

### 3 年齢別

搬送された人の年齢別では、65歳以上の高齢者の割合が63.2%と最も高くなっています。

### 4 傷病程度別

搬送人員を傷病程度別で区分する、中等症が50.8%、軽症が29.6%、重症が18.1%、初診時死亡が1.5%となっています。約3分の1が軽症であり、救急車の適正な利用が求められます。

### 5 ドクターヘリ

重症で緊急性の高い傷病者を、三次救急医療機関（救命救急センター）などへ39件搬送しました。【労働災害12件・転院搬送10件・交通事故5件・一般負傷4件・火災3件・急病3件・自損行為2件】

# 救 助

## 救助の現況

災害が複雑多様化、大規模化の傾向にあるなか、救助活動は、火災・交通事故・水難事故などの各種災害から大規模風水害、CBRNE（注1）災害などの特殊災害まで広範囲に及んでいます。これらの災害発生に迅速・的確に対応するため、各種救助資器材の計画的な整備を進めており、平成30年11月には総務省消防庁から津波・大規模風水害対策車が配備され運用を開始しました。また、救助隊員の資格者の充足と救助に関する教育訓練体制の充実に努めています。

（注1）CBRNE（シーバーン）は化学（chemical）、生物（biological）、放射性物質（radiological）、核（nuclear）、爆発物（explosive）、の頭文字。

### 1 出動件数・救助人員

平成30年中の救助出動件数は41件（前年54件）で、31名（前年28人）の要救助者を救助しています。

### 2 事故種別

救助出動における事故種別の割合（件数）は、交通事故が43.9%（18件）と全体の半数近くを占め、次にその他の事故が41.4%（17件）、水難事故が4.9%（2件）、風水害等自然災害4.9%（2件）、機械による事故が4.9%（2件）となっています。